



Title	「世界保健デー・テーマの意義に」
Author(s)	関, 淳一
Citation	目で見るWHO. 2014, 55, p. 7-9
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/86694
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

「世界保健デー・テーマの意義に」

公益社団法人 日本WHO協会理事長 関 淳 一

World Health Organization 世界保健機関

1948年WHO憲章に基づく国連専門機関
ジュネーブ本部と世界6地域事務局
2研究機関 リオンと神戸

日本WHO協会
1965年WHO憲章精神普及を目的に設立

WHOは、WHO憲章の批准国が規程の数に達した1948年4月7日に正式に発足しました。WHOはスイスのジュネーブに本部を置き、世界に6つの地域事務局を置いています。これとは別に研究機関が神戸とフランスのリオンにあり、リオンは癌の研究を、神戸は都市と健康についての研究を主として行っています。

毎年この4月7日を世界保健デーとして、世界各

その年に重点的に取り上げるべきテーマに関する啓発活動が展開されます。

ここ数年のテーマは表2の通りです。

表2 世界保健デーテーマの変遷

- 2008 気候変動
- 2009 災害時の病院機能
- 2010 都市化
- 2011 薬剤耐性
- 2012 高齢化
- 2013 高血圧
- 2014 ベクター伝播疾病

WHOのマーガレット・チャン事務局長は今年の世界保健デーにあたり、そのテーマについて、12のベクター伝播疾患をあげ、その中でも特にデング熱とマラリアを取り上げて次のように語っています。

「マラリアについては死亡率が高く、2010年の統

計で66万人が死んでおり、放置できる数字ではない。また、デング熱は50年の間に30倍に患者数が増えて、年間約1億人が感染している。

国境を越えた経済活動・貿易や人の往き来のグローバル化、温暖化という環境の変化、急激な都市化（インフラが整わないまま人口の都市への集中）、移動等が人々の健康にどの様に影響を与えているかを、ベクター伝播疾病を手掛かりに考えねばならない。」

最後に、WHOファクトシートの日本語版について紹介します。WHOメディアセンターから疾病や健

康課題に関する一般市民向けの基本情報として英語等で発表しているファクトシートを、日本WHO協会がWHO事務局長より付与された日本語版翻訳、出版権により、WHO健康開発総合研究センター（WHO神戸センター）の御協力のもとに訳出し、協会ホームページにおいて公開しています。協会ウェブサイトのトップページ上部のツールバー「WHOファクトシート」から閲覧して下さい。

<http://www.japan-who.or.jp/act/>

[index.html](#)

WHOファクトシート(抄録)

ベクター伝播疾病に関連する主な項目

ベクター伝播疾病(生物媒介の疾病)

Vector-born diseases

<http://www.who.int/mediacentre/factsheets/fs387/en/>

ファクトシートNo. 387

2014年3月

概要

重要な事実

- ベクター伝播疾病(生物媒介の疾病)はすべての感染症の17%以上を占めており、年間で100万人以上がこの疾病により亡くなっている。
- デング熱だけでも100カ国を超える国々で25億人を超える人々が、感染の危機にさらされている。
- マラリアは、毎年世界全体で60万人を超える人々の死亡原因となり、その多くは5歳未満の子どもたちである。
- シャーガス病、リシュマニア症及び住血吸虫症など他の生物媒介疾病に、世界中で何億人もの人々が罹患している。
- これらの疾患の多くは、確かな情報に基づいた予防措置により予防可能である。

マラリア

Malaria

<http://www.who.int/mediacentre/factsheets/fs094/en/>

[ts/fs094/en/](http://www.who.int/mediacentre/factsheets/fs094/en/)

ファクトシートNo. 94

2014年3月

重要な事実

- マラリアは、感染した蚊に咬まれることにより人々にうつされた寄生虫によって引き起こされる、命に係わる疾病である。
- 2012年には、マラリアにより推計62万7千人(推計には47万3千人から78万9千人という幅がある)が死亡し、そのほとんどがアフリカの子どもたちである。
- マラリアは予防可能であり、治癒可能である。
- マラリアの予防とコントロール手段の強化により、多くの地域でマラリアの負荷は劇的に軽減している。
- マラリアが存在しない国からの免疫のない旅行者は、いったん感染するとこの疾患に対して非常に脆弱である。

デング熱、重症デング熱

Dengue and severe dengue

<http://www.who.int/mediacentre/factsheets/fs117/en/>

ファクトシートNo.117

2014年3月

重要な事実

- デング熱は蚊が媒介するウイルス感染症である。
- これはインフルエンザのような疾病を引き起こし、時に重症デング熱と呼ばれる死に至る合併症に発展することがある。
- 過去数十年間で世界のデング熱の発生は劇的に増加してきている。
- 世界の人口の半分は罹患リスクに曝されている。
- デング熱は熱帯および亜熱帯気候の地域に見られ、多くは都市部及び半都市部の地域で見られる。
- 重症デング熱は、アジアやラテンアメリカのいくつかの国では、子供の重篤疾病と死亡の主要な原因となっている。
- デング熱、重症デング熱に特別の治療法はない。しかし早期発見と適切な医療へのアクセスによって死亡率は1%以下に低下する。
- デング熱の予防とコントロールは、ひとえに効果的な媒介蚊対策にかかっている。

日本脳炎

Japanese encephalitis

<http://www.who.int/mediacentre/factsheets/fs386/en/>

ファクトシートNo. 386

2014年3月

重要な事実

- 日本脳炎(JE)は、デング熱、黄熱病、西ナイルウイルスと近親関係にあるフラビウイルスで、蚊によって感染が広がる。
- 日本脳炎は、アジアの多くの国でのウイルス性脳炎の主要原因であり、その数は毎年ほぼ6万8000症例に達する。
- 日本脳炎の発症は稀であるが、脳炎を併発した場合その致死率は最高で30%程度になる。また、脳炎を併発した場合の恒久的な神経や精神面の後遺症が残る可能性は、30～50%にとなっている。
- WHO南東アジア地域、西太平洋地域にある24カ国は、日本脳炎の流行地域であり、30億人以上が感染リスクに晒されている。
- この疾病の根治療法はない。治療は重篤な臨床症状を緩和し、患者が感染を克服することを支援することに焦点を当てている。
- 日本脳炎の予防には、安全で効果的なワクチンがある。WHOは、この疾病が公衆衛生上の課題となっていると認められるすべての地域での日本脳炎ワクチン接種を推奨している。

© World Health Organization

これらの文章は、日本WHO協会がWHOのメディアセンターより発信されているファクトシートのキーファクト部分についての日本語版の翻訳権をWHO事務局長より付与され、WHO健康開発総合研究センター(WHO神戸センター)の協力のもと作成したものです。日本語版に対する責任は全て日本WHO協会が負います。

ファクトシートには、訳出部分以外にも当該案件に関する基本的情報や詳細情報へのリンク先などが示されていますし、また最新事情に合わせて頻繁に見直しが行われますので、更新日時の確認を含めWHOホームページでの原文をご確認ください。